



# Yonago East Weekly

創立 / 1968年4月24日 事務所 / 米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 (0859)32 5531  
 例会日 / 水曜日12:30 ~ 13:30 例会場 / ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 (0859)33 0911  
 会長 / 杉原弘一郎 幹事 / 宮岡博就 会報 / 荒川圭三 提供 / 東京印刷

## 出席報告

会員数75名 出席数 51名 欠席数 21名  
 出席免除会員 4名(荒川(雄)君、村上君、松本 (正)君、  
 新宮君)

出席率 72.37%

前回補正出席率 1/28 79.23% 1/21 80.00%

## 欠席者

足立(延)君、深田君、藤尾君、秦野(一)君、池淵君、勝部君、小谷(隆)君、木下君、小土井君、松本(啓)君、松浪君、永見君、西村君、野津君、小椋君、佐田山君、坂口君、田淵君、戸田君、田村君、内田君、山中君

## ビジター

### メーカー

木美君(2/3境港)、

## 今週のお祝い

出席100%祝: 21年田淵亮達君、結婚記念祝: 6日松本正己君、15日山根喜代寿君、16日吉岡朋美君、27日赤木勇夫君、梅田整一君、30日秦野一憲君

スマイルBOX 18,000円(累計660,000円)

結婚記念祝: 山根君、赤木君、吉岡君、松本(正)君、梅田君、夫人誕生祝: 吉野君、木美君、音楽熟成協会の解放を配布させて頂きました: 杉原君、車尾小学校の先生方に対してコーチングをさせて頂き、日本海新聞で取上げて頂きました: 足立(博)君

## 会長挨拶

昨日午後7時から11時半ごろまで上森会員宅にて作文コンテストの選考会が開催されました。我々が大切にしている子供たちの「夢をかたちに」作文コンテストであると思います。夜遅くまでに亘る慎重な審査の上33点の作文を選考いたしました。作品を読んで日本の子供たちは凄いなと感じた次第です。

先週の臨時総会にて韓国の芸場(イエジャン)ロータリークラブのと友好覚書提携について会員の皆様の了解を頂きました。今後は「緩やか」に提携を進めさせて頂いていただきます。

本日開催した理事会にて「会員増強プロジェクトチーム」の立ち上げを決定しました。今後、経年度に渡ってプロジェクトを進めて参りたいと思います。本日も5名の女性会員が座っておられる隣の席から順に席が詰まって来ました。後2,3人でも女性会員が増えたら、19名の女性会員がいらっしやる芸場ロータリーに近づくのではと考えます。

## 幹事報告

1. GSE解団式出席のお礼
2. 07-08年度RI年次報告
3. 例会変更通知

倉吉東RC 2月26日(木) 24日

3RC合同例会

ビジター受付あり



MAKE DREAMS REAL 夢をかたちに

## プログラム

「ロータリーの友紹介」

雑誌委員会 芦立 久 会員

縦書き1ページ、世界理解月間のRI会長のメッセージです。自分が育った村しか知らなかった私が20代の時にサンフランシスコで、すべての物事、世界中から集まってきたあらゆる人々何もかもが衝撃的であった。一番大切な点は私が経験した以上物事が世界中にはもっと多く存在していると云う事を知ったことです。「国際奉仕」に従事することが国際的な親睦につながり平和な明日を築くことになるのです。

5ページからのUNHCRで活躍する元ロータリー財団奨学生ロータリー世界平和フェローの紹介が載っています。UNHCRとは1951年から活動している難民問題を担当する国連機関で「国連難民高等弁務官事務所」のことです。緒方貞子さんに続いてロータリー財団に留学の機会を与えられた後、UNHCRで働くこと選んだ8名の日本人女性が全て紹介されています。

9頁には「ロータリー財団国際親善奨学生」「ロータリー世界平和フェロー」について解説されています。

6月に第100回の国際大会が英国のバーミンガムで開催されます。案内が10頁に掲載されています。15頁には2004年に大阪で開催された大会エピソードが載っています。会議の開始が遅れて開催地元ロータリアンはイライラが募って爆発寸前だったとのことですが、国際ロータリのスタッフ達は「1時間は遅れると思っていたのに30分の遅れで、さすが時間に正確な日本だ」と感心しきりだったとか。

37頁に「識字率向上」について記事があります。ユニセフは世界人口の15%、10億人が読み書きができないと推定しています。非識字の女性は世界で5億人、成人非識字人口の3分の2です。先進国でも世の中が複雑になるにつれ単純な職に就くにも高度な読解力が必要とされるようになりました。

縦書き2ページ。4歳の時に両手を亡くされた中学校教諭の講演が載っています。ぜひ一読を。

## 「新型インフルエンザ」について

野坂美仁 君

昨年の4月から西部医師会の副会長を任せられ保健所・行政と協議することが多くなりました。現在は「認知症」関係と「新型インフルエンザ」対策を練っています。インフルエンザは「人から人」にうつるウイルスによる感染症です。「いわゆる風邪」とは違って、その感染力が何十倍も強力で集団感染しやすい。「うがい・手洗いで予防」とされていますが咳で飛び散ったウイルス飛沫を鼻や口から吸い込んでしまってからでは遅いのです。予防にはマスクが有効です。

また、咳でウイルスを撒き散らさない為にもマスクは有用ですが、インフルエンザにかかった人は職場や学校など人が集まる場所へ行かないことは重要です。熱が下がった後も2日はウイルスを排出するとされています。是非5日間の自宅療養を守っていただきたい。風邪は鼻・喉・気管の辺りまでの症状ですが、インフルエンザは全身感染症です。症状は突然の高熱と全身の筋肉痛・関節痛です。脳炎や肺炎を起こすこともあり、幼児や高齢者など免疫力の低い方は重症化しやすく時に致命的にもなります。抗インフルエンザ薬としてタミフル・リレンザと云う薬をお聞きになったことがあると思いますが、効果はウイルスの増殖を抑えて有熱期間を1日程短縮するというエビデンス程度です。予防にはワクチンしかありません。

本日例会に出席されている方には今期インフルエンザに罹ったと云う方はいらっしゃいませんでしたが、過去に「スペイン風邪」と呼ばれたインフルエンザは、当時の日本の総人口5500万人のうち40%の人が罹患して39万人の方が亡くなっています。

今度の新型インフルエンザでは鳥取県では25%の方が罹患するとシミュレーションした場合人口60万人の鳥取県では15万人の方が罹患して医療機関には7万人から12万人の方が受診され、3千人から1万2千人の方が入院を必要とされ、(1日最大480人の入院)、8百人から最大3千人の方が亡くなると推定されています。西部圏域で毎日10人がインフルエンザで亡くなる計算です。現在流行っているインフルエンザとは全く別物と考えなくてはなりません。

新聞の切り抜きを持ってきました。見出し部分のみですが「自治体の対策遅れ鮮明」「発熱外来準備不足」「ワクチン備蓄目標充分と答えたのは8県」確かに対策遅れを指摘していますが理解不足の感は否めません。自治体に対策を求めています。その前に国の対策が遅れているのです。国は「保険診療を基本とする」と云っていますが、「非常時」との認識で運用をして頂きたい。「発熱外来」とお聞きになれば新型インフルエンザにかかればそこへ行けば良いのだと皆さんは思われるかもしれませんが、先ほど話したように人から人にうつる病気なのです。「発熱外来」を受診しなくても良い人が安易に「発熱外来」へ出かけて新型インフルエンザにかからないようにしてはなりません。ワクチンに関しては未だ流行していないウイルスのワクチンなど未だ開発されてるはずもないのです。

大規模流行期、体育館などで「発熱外来」で診療を担当する医師や看護師、薬剤師、受付事務...そこを下支えする空調、リネン関連、給食、排泄物処理...まだ何も決まっていません。一方、幸い新型インフルエンザにかからずに住んでいる方々の日常も並行して営まれなければなりません。

情報をきちんと入手して、パンデミック(大規模流行)に備えてください。

## 次回プログラム

2月12日 5RC合同例会  
18日 休会

2月25日 「どらやきベンチャー」  
丸京製菓(株)代表取締役社長  
鷺見 浩生 氏